

取組の概要

対象畜種

豚・養鶏

協議会構成員

畜産農家、耕種農家、ちばみどり農業協同組合、昭和産業、旭市、千葉県海匝農林振興センター

飼料用米生産面積

40.0ha

供試品種

あきたこまち	8.0ha	ふさこがね	23.0ha
コシヒカリ	1.0ha	モミロマン	2.0ha
ふさおとめ	2.0ha	ヒメノモチ	2.0ha
夢あおば	2.0ha		

取組内容

①飼料用米の流通、保管、調製に係る実証調査

- ◆耕種農家が自ら乾燥・調製し、市内畜産農家へ搬入する。一度使ったフレコンバックをJAで確保（無料）していただき、活用を図る。

②飼料用米の給与による家畜・畜産物への影響調査（畜産物の成分分析を含む）

- ◆影響調査については千葉県畜産総合研究センターで調査。
- ◆成分分析については日本認証サービス（株）に分析を依頼。
- ◆畜産物生産コストについては、海匝農林振興センターで調査。

③飼料用米を利用した畜産物の普及活動

- ◆飼料用米破碎装置実演、講演会、関係機関情報提供、取組関係者の意見交換を実施し、飼料用米給与畜産物の試食を行う。

取組によってわかったこと

1. 調製・保管・流通について、次のことがわかりました。

- フレコンバックでの搬入で低コスト化を図った農家もあったが、小さな農家ではフレコンバックでの対応が出来ないものもあった。また、今後のフレコンバックの確保（無料）が課題。
- 配合を担った飼料メーカーからは、配合飼料に飼料米を混合する上で、フレコンバックは、500～1,000kgと重量が任意のため幅があり、重量が定まった30kg紙袋の方が計量がしやすいとの意見が出されたが、作業効率の低下や人件費がかかるとの意見もあった。
- 耕種農家から、畜産農家への搬入形態に関しては、フレコンバックによる方法は、短時間で済むなど効率的であった。受入側がパレット・フォークリフト・台秤を自主的に用意したことも、搬入作業の効率化に貢献した。

2. 家畜・畜産物への影響について、次のことがわかりました。

- 発育に差はありませんでした。

豚肉

飼料米給与による豚肉の変化は、どのような変化が表れるか懸念された部分もあったが、サンプル分析結果、銘柄豚で高いとされる脂肪融点が高まり、味わいに影響するとされる遊離アミノ酸も高まるなど、飼料米給与による好影響が確認された。

鶏卵

飼料米を給与した鶏卵は通常卵よりアミノ酸が向上し、味わい向上効果が確認された。

3. 普及活動について、次のことがわかりました。

- 飼料用米取組の問題点など関係各位の共通理解が得られた。

4. 今後の飼料用米の取組予定などについて

- 生産調整の実行性確保の観点から更なる作付け拡大を目指す。

畜産サイドとしては、飼料用米給与畜産物の品質に良い影響が得られるようなので、有利販売に展開して行けそうに思われる。

流通・保管経費、飼料用米の横流れ防止等に係わる確認など課題はまだ沢山あるように思われる。

耕種農家に理解を得られるよう各種補助金等の措置が

なされているが、確認作業や事務、農家への説明（複雑な制度）等が末端の市町村に負担が多くなっている。

旭市農水産課

参考データ・写真等

